

復活徹夜祭の説教

金 大烈 神父 2009年4月11日(土)

《復活、希望の信仰に生きる》

復活おめでとうございます。(暫くお互いに喜びの挨拶を交わし合う)

さあ、皆様の心に“ご復活”は訪れたのでしょうか。今日は余り話が長くなると悪口を言われそうですので、出来るだけ簡単に申し上げます。(皆が笑う)

私達は“復活の信仰”を持った生き方をしなければならないのです。もし、復活が無かったらイエス様というその存在も、ただ単に歴史上の人物にすぎなかったでしょう。復活の信仰があるから、私達は他の信仰についても信じる事ができます。

“死”を越える“希望”、“絶望”を越える“希望”、それが復活の信仰ではないかと思えます。私達は何よりも復活の信仰にふさわしい生き方をする様に頑張らなければならないと思えます。もし私達の信仰生活の中で、もう何年も信仰の生活をしていても、皆様がこの“復活の信仰”の体験が出来なければ、この復活に対しての希望を持つ事が出来なかったら、今までの信仰は無駄になるかもしれません。

結局、私達が求めるのはこの復活の信仰です。この復活の信仰があるから、私達はこの様にお互いに家族であり、兄弟であり、姉妹であります。全ての交わりの絆が出来たのです。

皆様、これから次の復活祭まで、まだ1年残っているでしょう?(笑い)でも、そういうことなく、死ぬ時まで、「“復活の信仰”を、いつか“永遠の命”を頂く事を希望します」という、その心を保ちながら生きるのが信仰の道だと思います。もしこのような復活の信仰が身についたら、私達はどんな難しさに出会っても、どんな事が起こっても恐れる事はなくなると思えます。

皆様、私は復活祭のプレゼントとして、ちょっと書いてみました。これを皆様へのプレゼントとして読ませて頂きます。

復活の恋歌

金 大烈 神父

摩天楼の夜空にも星がある。
見えないことが無いのを意味するのではない。
考えられることが有るのを意味するのではない。

何を探しているのか。
何の為にここまで来たのか。

ペトロを殺した夜明けの鶏の鳴き声にも
乱れ髪のマグダラのマリアの切迫な足取りにも
沈黙で全てを胸に納めた聖母の涙にも
復活は既に有った。

痛いのか、悲しいのか、恐ろしいのか、絶望しているのか。
そしたら、復活を見られる目が開いたと思いなさい。

復活って、もともとそんなものだった。

苦痛の中に真の平和の始まりがあるように
彷徨い(さまよい)の中に正しい道が見えて来ることのように
我らの生き方は復活を向いて行かなくてはならない。

それで、
私の歌が
自分の胸の何処かにむせび泣いている。
その星、その希望を探さなくてはならない。

そうだ、復活は平和そのものだった。

摩天楼の夜空にも星がある。

2009年4月11日
復活の徹夜祭のミサに